



ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】 まんがでみる ボトムアップ理論
畑 喜美夫 著 ザメディアジョン
ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2019年11月1日 Vol. 205
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
ライフコンサルタント 渡邊 敏 徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

ラグビーワールドカップ2019

アジア初の開催となった「第9回ラグビーワールドカップ」が、2019年9月20日から11月2日まで日本全国の12会場で開催され熱戦が繰り広げられました。公式キャッチコピーは「4年に一度じゃない。一生に一度だ。- ONCE IN A LIFETIME-」。

前回大会では予選で3勝したもののベスト8進出が叶いませんでした。しかし、今大会で優勝した南アフリカに歴史的な勝利したことは、私たち日本人に大きな自信と勇気を与えてくれました。次の大会が日本開催ということもありラグビー熱に火が付いていったように感じました。

2018年現在、ラグビーは世界123ヶ国で行われており競技人口は約960万人（うち270万人が女性）いると言われています。また、7人制ラグビーが五輪の正式種目になったこともあり、2015年からの3年間で770万から960万人と競技人口は急増しています。

今大会で日本チームが初のベスト8進出と活躍しましたが、ちょっと心配なことがあります。2018年において日本の競技人口は約11万人です。日本ラグビー協会がこの登録者数を2019年に20万人にすることを目標に掲げていますが、2015年の約11万5千人から2018年には約10万8千人となり7千人あまり少なくなり、増加するどころか減少している状況です。

これからの日本ラグビーの中心となっていく高校ラグビーの部員数は2018年度に過去最低となる約2万1千人にまで減少してしまっています。残念ながら非常に厳しい状況が続いており、日本ラグビーの見通しは暗いのが現状です。



今大会の経済効果は4300億円とも言われ、全国的に盛り上がりました。ところが、死闘を勝ち抜き、優勝したチームに与えられる賞金は、なんと0円だというのもビックリです。サッカーのW杯では優勝賞金は約41億円でこの差はとても大きいです。「お金のために試合をするのではない」と言えばきれいに聞こえますが、少子化の今、海外の有力な選手やトップレベルの選手たちに憧れる子供たちをラグビー界に引き込む対策が必要ですね。

最後のラブレター

最近耳にするニュースはとてもガッカリする内容が多い中で、とても感動的な話を見つけたのでご紹介します。

脳梗塞で入退院を繰り返していた祖父。私たち家族は以前からの本人の希望通り、医師から余命があとわずかであることを知らされていたが、祖父には告知しないでいた。

「元気になって、またみんなで楽しく暮らそうね」。祖父を見舞った際の合い言葉のようでもあった。

祖父の1周忌が過ぎた頃、父が祖母に1通の手紙を手渡した。祖母の心の落ち着きを待ってのことだった。衰弱し、震える手で書かれた文字は書道で師範格であった祖父が書いたとは思えない程弱々しかったが、文面から感じられる優しさ、慈しみが祖父のそれであった。

「おばあちゃん元気。ともに過ごした時間は永いようで短い50年でしたね。また機会があればいっしょに暮らしたいものです」。祖父が書いた最初で最後のラブレターである。

私たちは、忙しさにかまけて毎日何となく生活してしまっていることが多いのではないかと思います。目の前の大切な人にも「ありがとう」の言葉さえかけることをしていません。失ってはじめて気づくことがありますね。



【座右の銘にしたい名言】



最もよい説得方法の一つは、相手に気に入られることである。

(カリエール/フランスの外交官)